



特集 人口減少危機突破に向けて

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.55 March.2024

contents

- 市町村長リレー
- 苦言提言
- 地域シンクタンク
- 市町村の元気印
- 地域おこし協力隊の活動

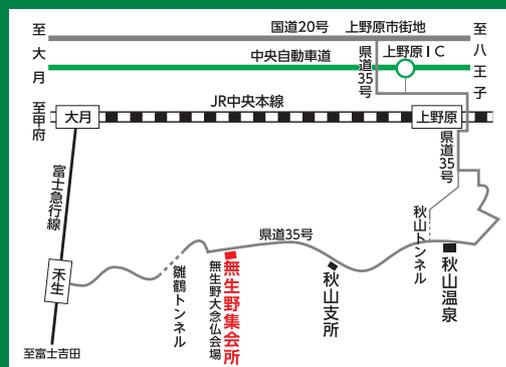


machijiman

施設情報・無生野集会所
山梨県上野原市秋山12730-1

お問い合わせ先

上野原市教育委員会社会教育課社会教育担当
住 所：山梨県上野原市上野原 3832
電 話：0554-62-3409
メー ル：shakaikyoiku@city.uenohara.lg.jp



シリーズ ま・ち・自・慢

Uenohara-City 上野原市

ユネスコ無形文化遺産登録1周年 無生野の大念仏

無生野の大念仏は、上野原市秋山地区（旧秋山村）無生野の伝統芸能です。鎌倉時代から盛んとなった踊り念仏の流れをくむもので、南無阿弥陀仏を唱えつつ鉦や太鼓で囃子ながら集団で踊り、無我の境地、法悦の境地に至るとともに病氣平癒を祈禱します。

大念仏が伝えられる秋山地区無生野は、標高約500mの山間地にある世帯40戸ほどの小さな集落です。この地で大念仏は、地元の年中行事として古くから継承されており、現在も旧暦1月16日頃と新暦8月16日の年2回、夜7時頃から無生野集会所で行われています。

当日、会場の畳部屋には青竹と注連縄で二間四方に区画された道場が作られます。また、紙の切り飾り（御幣）が多数吊されて荘厳さが醸し出され、日が落ちると、地元住民だけでなく県外客も多く詰めかけて熱気に包まれます。

大念仏の継承には後継者不足などの困難がありますが、令和4年11月30日には「風流踊」として全国41件の重要無形民俗文化財とともにユネスコ無形文化遺産に登録され、地元の意気はますます盛んです。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.55 March.2024

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.55 March.2024

- まち自慢 上野原市
- 02 市町村長リレー 北杜市
富士川町
- 06 苦言提言 LOVE 富士吉田
特定非営利活動法人かえる舎 代表理事 斎藤 和真
- 07 特集「人口減少危機突破に向けて」
- 16 地域シンクタンク
- 18 市町村の元気印
- 20 地域おこし協力隊の活動
- 22 講演録
- 29 自治 Q & A
- 32 多様性を認め合う共生社会の実現に向けて
- 34 救急安心センターやまなし(#7119)の開設について
- 36 がんばっています。
- 38 はつらつ!!市町村職員
- 40 市町村振興協会たより
- 時の人
- 編集後記



表紙写真
乙ヶ妻のシダレザクラ

山梨市牧丘町室伏に生育するシダレザクラ。小高い丘の上に凛と立つ一本枝で、長い枝が地面すれすれにまで伸びている姿はとても優雅。その姿を求めて毎年多くのカメラマンが訪れる。見頃には夜間ライトアップされ、星空と甲府盆地の夜景とともに楽しむことができる。

【山梨市提供】



初秋の八ヶ岳山麓

本年は市制施行20周年

「子どもが賑わう夢叶うまち」

を目指して

上村 英司 北杜市長

北杜市の紹介

北杜市は山梨県の北西部に位置し、旧北巨摩郡に位置していた8つの町村が合併して誕生しました。

総面積は602・48平方キロメートルで、県全体の約13・5パーセントを占め、県内で最大となっています。

北は八ヶ岳連峰、西は甲斐駒ヶ岳から連なる南アルプス、東は茅ヶ岳、瑞牆山などの奥秩父山塊といった日本を代表する美しい山岳景観に囲まれています。

また、清らかで豊富な水資源、高原性の気候、日本で一番長い日照時間など、豊かな自然環境に恵まれた地域で、南アルプス・甲武信の2つのユネスコエコパークを有する全国唯一の自治体です。

特に、水資源については、環境省の「名水百選」、「平成の名水百選」において、国内最多となる3か所が選定されており、まさに「名水の地」の名にふさわしい地域です。

「子育てするなら北杜」

本市においては、少子化・高齢化が著しく進行しており、持続可能なまちづくりのためにも、人口減少の抑制とその対応は急務となっています。

そのような中、令和4年「子育てするなら北杜」を宣言し、市を挙げて、出会いから結婚・妊娠出産・子育てまで、切れ目のない支援を行っています。

具体的な施策として、これまで、「子育て世帯マイホーム補助金」や保育料の第2子以降無料化など、全国に先駆けた取組を行ってきましたが、昨年度からはさらに、第3子には段階に応じて合計100万円を支給する「子育て応援金」をはじめ、八ヶ岳定住自立圏（北杜市、富士見町、原村）での、インターネット上の仮想空間を活用した「メタバース婚活」の開催や、本年度新たに、転入してきた子育て世帯の家賃を一部補助する制度や、新婚世帯のスタートアップにかかる費用を補助する制度を創設するなど、手厚い子育て支援に取り組んで



上村 英司 北杜市長

PROFILE 昭和45年10月26日生(53歳)
北杜市須玉町在住
平成 5年 3月 慶應義塾大学卒業
平成 5年 4月 サントリー株式会社入社
平成24年11月 北杜市議会議員就任
令和 2年11月 北杜市長就任

います。

こうした子育て施策や、本市本来の持つ魅力から、移住先として人気が高く、令和2年から3年連続で転入超過となりました。

これからも、少子化の克服に向けた、様々な施策に全力で取り組んでいきます。

企業と連携した取組

本市では、様々な地域課題の解決や複雑、多様化する取組を、多くの民間企業と連携して進めています。

令和2年には、全国の自治体としては初めて、株式会社ゴールドウインが展開する「THE NORTH FACE」と包括連携協定を締結しました。

同ブランドが有するアウトドアに関する知見を生かし、これまでに市内の駅と登山口を結ぶ「MOUNTAIN TAXI」の運行や、登山道整備をアクティビティとして活用した取組、子ども達を対象とした「ほくと 山の学校」の開催などを実施し、



登山道の整備

地域経済の活性化やアウトドア文化の発展を図りながら、まさに「アウトドアの聖地」を目指した取組を進めています。

その他にも、DXの推進や環境保全、福祉の充実、産業振興など、今後もより良い地域づくりに、企業と共に取り組んでいきます。

価値の高い産業の創出

本市には、水や日本酒、ワイン、縄文文化、アートなど、世界的にも価値の高い資源が多くあることから、これらの資源を更に取り上げ、世界水準の観光と食の都市を目指した取組を進めています。

特に、昨年を「インバウンド誘客元年」と位置付け、インバウンド誘致や北杜市産の農産物や加工品の販路拡大を図るため、海外へのトップセールスに力を入れていきます。

昨年7月には、市内の観光事業者や商工事業者と共に台湾を訪問し、台中市と「観光友好交流の促進に関する協定書」を締結しました。

また、台中市内にある高級スーパーにおいて、サクラソボや、お米、ワインなどの市の特産品の販売を行うなど、市の観光や市内の特産品のPRを行いました。

また、昨年10月には、ベトナム社会主義共和国を訪問し、北杜市産のワインや物産品などのプロモーションや商談会のほか、現地の旅行会社にトップセールスを行いました。

今後アジア圏を中心に、本市の魅力を活かして積極的にPRし、インバウンド誘客と輸出強化を図っていきます。



ベトナムへのトップセールス

「北杜は一つ」

北杜市は本年、合併から二十周年を迎えます。

これまで本市の発展のために努力してこられた先人の思いや、旧町村時代から守り培ってきた、各地域の豊かな資源、文化を次世代に引き継いでいくとともに、持続可能なまちづくりを進めていくためには、新たな価値の創造を図り、更なる発展を遂げなければなりません。

そうした信念から、「北杜は一つ」の考えのもと、「市民が幸せを実感でき、子どもが賑わう夢叶うまち」の実現に向けて、今後も取組を進めてまいります。



富士川町
Mayors of municipalities relay

市町村長リレー

対話と現場主義による

協働のまちづくり

持続可能な町をめざして

望月 利樹 富士川町長

令和4年1月から町政執行を担わせていただくことになり、早いもので2年が過ぎました。

町の皆さまの生活を第一に、いきいきと暮らしていただけるまちづくりを推進することで、町内外の人々の交流が生まれ、さらに町が豊かになっていく、そんな好循環をつくり上げていきたいと考え、様々な政策を展開してまいりました。

富士川町の主役は町の皆さまであり、「暮らしと自然が輝く 交流のまち 〽️生涯〽️快適に暮らせるまちを目指して」を将来像に、一人ひとりが、地域に誇りと愛着を感じながら、この地で生きていくことを自覚し、キラリと光る個性と魅力のあるまちづくりを目指して取り組んでいます。

一方で、アフターコロナや物価高騰、人口減少、少子高齢化の急激な進展によって、地域社会や地域経済に及ぼす影響が大きくなり、地域活力の減退につながってくるという課題に直面しています。

こうした中、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるため、快適で安らぎのあ

る住空間と、人々の交流や産業による活力ある町を目指し、町民の定住と町外からの移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や、地域を守り活性化するまちづくりなどを通じて、人口の社会減に歯止めをかけることに取り組んでいます。

「公」と「民」の力を一つに

官民協働により地域資源を最大限に活かした政策を機動的に進めるため、地域経営の視点に立った舵取り役として、令和5年6月30日に、株式会社ふじかわまちづくり公社を設立しました。この法人は、町が100%出資する法人で、民間の経営感覚をまちづくりに反映させ、地域社会における経済、文化、社会の発展に寄与する組織で、9月26日に観光庁の観光地域づくり候補法人（候補DMO）に登録されました。

今後は、町の税収入が減少していくことが予想される中で、中長期的な財源を着実に確保するため、町の観光事業やふるさと納税事業、企業版ふるさと納税事業など、



望月 利樹 (富士川町長)

PROFILE 昭和43年7月15日生(55歳) 富士川町青柳町在住
山梨学院大学大学院 社会科学研究所 公共政策課程修了
平成19年 5月 旧増穂町議会議員就任
平成23年 4月 山梨県議会議員就任
令和 3年12月 辞職
令和 4年 1月 富士川町長就任

民間のアイデアや知見を活かした各種事業を進めていくこととしています。こうした事業による収入を原資として、町の魅力をさらに高める観光インフラの整備等の諸施策に取り組み、観光事業を軸に展開することで、町がさらに活性化することを期待しています。

スポーツを通じたまちづくり

企業版ふるさと納税制度を活用し、トッピーストリートBグループに所属するラグビーチーム「クリーンファイターズ山梨」とのスポーツ包括事業の展開を図ることで、町のスポーツ環境の充実、町民の健康増進やスポーツによる関係人口の拡大など、第2次富士川町まち・ひと・しごと総合戦略に基づき、地方創生の推進が図れるものと考えています。

クリーンファイターズ山梨のスポーツ振興への取り組みや、人的ネットワークなどを最大限に活用していただくことにより、本町とクリーンファイターズ山梨との協働

による「豊かな人材と文化を育むまちづくり」の実現に、大きく前進するものと期待しています。

これまで、クリーンファイターズ山梨の選手による、交通安全街頭指導、訪問ラグビー教室、ラグビー体験会、料理番組・健康体操番組へのゲスト出演、小学校保健集会への派遣、体育授業への講師派遣、選手との交流会、試合会場でのマスケットキャラクターによるPR活動などを行っています。

人と動物との共生社会の実現

ペットフレンドリーなまちづくりの形成やペットツーリズムを推進することで、ペット共生社会の実現を目指した事業に取り組んでいます。

こうした中、ペット関連サービスを手がける民間企業と包括連携協定を結び、アプリを活用してペットが同伴できる店舗を紹介することや、災害時にペットの受け入れが可能な避難所の選定に向けた取り組みを推進することとしています。

町の豊かな自然と、同社が持つノウハウを最大限に活かしていくことにより、ペッ



ラグビー教室に参加した子どもたちと

トの飼育環境の向上、ペットツーリズムの推進に関する施策を展開できるものと期待しています。

持続可能な農村づくり

全国的に人口減少が加速する中、本町においても都市部に先駆けて人口減少・高齢化が進行し、その傾向は中山間地域になるほど顕著な状況にあります。今後、将来にわたって農用地の保全活動や、くらしを守る地域コミュニティを維持していくことは、まちづくりを進める上で、大きな課題となっています。町ではこうした状況を鑑み、それぞれの集落が補完し合い支え合いながら、持続可能な地域づくりを目指していくため、農村RMO形成事業を導入することとしました。町が目指す地域の将来像を示すものとして、「農村RMO形成事業



つなぐ棚田遺産認定 平林の棚田

「未来ビジョン」を策定し、「次世代につながる 魅力と活力あふれる地域づくり」をこの事業のテーマとし、持続可能な農業の

確立を目指して取り組みを推進してまいります。

合併15周年を前に

富士川町は、旧増穂町と旧鯉沢町が平成22年に合併し、令和7年3月8日で15年を迎えます。

本年は15周年として、5年ぶりとなる山車巡行祭りを開催予定です。

また、3月下旬からは、「さくら名所百選の地」にも選ばれた桜の名所・大法師公園における「大法師さくら祭り」が開催予定です。2,000本が咲き乱れる姿は圧巻です。

そのほか、記念行事を計画しており、一年をとおしてお楽しみいただける記念イヤーをお見逃ししないよう、ぜひ富士川町に足をお運びいただきたいと考えています。



空から見る大法師さくら祭り

富 士吉田市は移住前から知っていた。ちょうど10年前に、恩

師から推される形で富士吉田市に移住してきました。「富士吉田」と最初に聞いた時、「わあ！志村くんの町！」とココロ踊ったことを覚えています。私の高校時代のBGMは間違いなく富士吉田出身のバンド「フジファブリック」です。故ボーカル志村正彦さんの出身地だというだけで、どんな町か詳しく知らないまま「最高に決まっている！」と二つ返事で飛び込ませていただきました。当時24歳。新卒。まさに右も左も上も下も分かりません。でも、「なんとかなるっしょ！」と、茜色の夕日を眺めながら、やってきました富士吉田。

何もかも初めての「ローカル」仕事は刺激的で目が回ってしまうほどでした。ただ、置かれた場所で咲くのは得意な方です。数少ないことができることを一杯やり、足りないスキルを補い、とにかく富士吉田に向き合いました。もちろん一人では何もできないので、地域の先輩方にたくさんご指導いただきました。指導ついでに、毎晩のようにご飯に連れ出してもらっては、富士吉田のこと、地域に対する思いを聞かせていただきました。夜もふけてくると、

苦言 提言

Kugen Teigen



齋藤 和真

Kazuma Saito

特定非営利活動法人かえる舎
代表理事



先輩方は申し合わせたように地域の未来について語り出します。「子供たちにはもっと富士吉田を好きになってもらいたい」「若いみんなが出て行ってしまうけど、富士吉田って良い所だと思っただよ」言い回しはそれぞれですが、一様に次世代に期待していることはよく分かりました。何もできない私でしたが、富士吉田のためにできることは「地域に夢中になる次世代を増やす」ことだと決めました。そして、2016年に「かえる舎」という次世代と地域を結ぶための団体を立ち上げ活動を開始しました。

かえる舎の由来は、「地域の新たな一面や魅力を知る（自分をかえる）」「地域のためにできることをやってみる（地域をかえる）」という「change」かえる」から来ています。また、いつか地元に戻ったり、地元と関わったりするような環流も生み出すべく「還る」の意味も含んでいます。良い名前。ふふふ。ちなみに爬虫類のかえるもどちらかというと好きです。

私たちは教育と地域の橋渡しをしています。高校で2022年度から必修になった課題解決型授業「総合的な探究の時間」の地域コーディネートや、40名ほどの高校生地域活動グループを組織し、地域とより密接に活動する機会を創出しています。また、小中学校

での地域教育の支援や、大学生の地域フィールドワーク支援等も行っています。一貫して、「次世代が地域と結びつく機会」を作っています。毎年関わる高校生は1200名以上。授業数は年間200時間程。このような機会を継続できているポイントは「自治体と学校の理解」です。かえる舎が関わる高校の多くは県立高校であるにもかかわらず、自治体である富士吉田市が「地域の子供たちを地域で育てる」と活動を後押ししてくれます。また、学校も受験に直結する活動ではないにもかかわらず、意義を理解してくれています。そのために、双方と何度も話し合う時間もいただいています。こうして、それぞれが当事者意識を持つているため、充実した活動を送ることができています。

教育は成果がでにくいと、頻繁に聞きます。本当にそうだと思います。でも、すごく意味があることだと信じています。今では、「中学時代から活動に混ざりたかったんです！」と早期から地域に興味関心を持って取り組んでくれている次世代が増えてきました！活動をはじめて8年。でも、まだ8年。まだ見ぬ未来の大人たちと一緒に、地域を楽しめるよう、富士吉田という土地で教育を支えていけるよう頑張ります！